



野口 健

「登山家」

「エベレストを

Mt. FUJIにしようのか?」

一九九七年に初めて国際隊の一員としてチョモランマ登頂に挑戦した際、欧米の登山隊にきつい一言を言われました。そこで初めて、自分たちのベースキャンプ周辺がゴミの山になっていることに気がついたのです。山なしに今の僕はありません。だからこそ、その聖域がゴミまみれなのは見るに耐えがたいのです。そこで、七大陸最高峰の挑戦を無事終えたら、山々に恩返しをする意味でも、次は清掃登山を始めようと決め、今に至っています。

日本は国土の65%以上が森林の珍しい国です。森林の持つ魅力は十人十色人それぞれ性格が違うように、山や森林もそれぞれ持っている顔が違います。僕は森林の中に入った時にヒヤッと感じる瞬間がたまらなく好きなんです。

しかし、一見豊かに見えますが、手入れをされることなく放置された森林が増えているとも実感しています。そこで、間伐などの体験学習を交えた「森林再生プロジェクト」を長野県の小諸市と共に始めました。これは、市内の全ての小学校に対して総合学習の中に環境教育を取り入れた全国初の取

り組みです。次世代を担う若者たちに森林の重要性を勉強してもらい、我々の生活に森林がどれだけ重要なのか知ってもらおう良い機会になったのではないかと思っています。

今後、森林保護の課題は、いかに自然と共生ができるかということでしょう。ある山で、漁師が集まって植林をしたという話を聞いたことがあります。山が豊かであれば、雨が腐葉土を通り川へと栄養分を運んでくれます。川が豊かになれば、自然に海が豊かになると考えたのです。海が豊かになれば自分たちも豊かになるのです。まさにこれは自然との共生。森の重要性は遠く離れた海にまで及んでいるのです。

プロフィール
野口 健(のぐち けん)
1999年に世界最高峰のエベレスト登頂に成功し、その後七大陸の最高峰世界最年少登頂記録を25歳で樹立。その後、エベレストのゴミ問題を解決するため世界各国の人々と連携を図り、清掃登山に尽力する。現在は、富士山を世界遺産にすべく、「富士山から日本を変える」をスローガンに精力的に活動中。2007年5月15日に2度目のエベレスト登頂に成功。

Ken Noguchi